

農里であり、藤田維正・高橋富兒・武藤元信・大野尹時・小原恒貞等も序跋を加へてゐる。

シラヤマユウランズキ 白山遊覽圖記 十冊。金子有斐著。白山の地理・名蹟・産物等を漢文で詳記したもので、別に山中の鳥瞰圖三葉が添へられてゐる。白山史を改訂したもので、文政十二年増島石原の序文がある。

シラヤマロクシヨノウウジ 白山六所王子大永七年の託宣記に、白山六所の王子を、一に金劍の宮、二に三ノ宮、三に禪師の宮、四に佐羅の宮、五に若宮、六に加賀の宮と記されてゐる。若宮は八幡宮のことであらう。

シラキゴホリ 白井郡 ↓ハクヒゴホリ羽咋郡。

シラキリヨウダツ 白井長達 石川郡松任の醫。廿九ヶ所に窃盜を行ひ、又藩の御算用場の土藏を破つて、文化五年九月十九日生胴に處せられた。

シラヲ 白尾 河北郡金津庄に屬する部落。源平盛衰記壽永二年五月の條に、『能登路白生を打過て』とある白生も是に同じい。

シラヲヤ 白尾屋 金澤升形(今安江町)の舊家で、世々吉郎兵衛と稱した。元祖吉郎兵衛は元祿七年四月三日初めて賣藥・藥種を營業し、今日に至るまで尙連綿する。家傳の藥方中、赤龍丹と稱する風邪藥、紅梅散と稱する目藥が尤も有名である。

シラヲヤジュウゴ 白尾屋從吾 金澤の俳人。通稱傳右衛門。支考及び北枝と最も風交があつた。享保八年に刊行せられた白陀羅尼は、支考の著であるが、表向は從吾の選とせられてゐる。某年三月六日を以て歿した。

シラヲヤシヨウチ 白尾屋小路 金澤の舊町名。升形(今安江町)なる舊家の藥店白尾屋の横町である。

シリタ 尻田 鳳至郡當目の内の小字。

シリタカヤマ 後高山 石川郡鶴來の部落から東方にある山。高さ六四七米。地質石英組面岩。

シリタニドウガタ 尻谷堂形 ↓シンドウガタ 新堂形。

シリタレザカ 尻垂坂 金澤小立野から新堂形前へ出る往來の坂路。承應の頃は汁谷町と呼び、又尻谷・修理谷なども書き、小尻谷に對して大尻谷とも稱した。昔小立野が山林であり、此の坂路が里人の樵道であつた頃の遺名といひ、或は古へ坂道より水がしみ出て、夏季にも乾かぬ故に汁垂坂と呼んだといふ。此の坂文政前までは甚だしい峻路であつたが、竹澤御殿建築に付き、文政三年八月往來を止め、坂道を取廣め、同年九月から庶人の通行を許したといふ。明治廢藩の際改めて尻垂坂通の町名を設け、今はまた電車路を通じた爲切下げて形勢一變してゐる。

シリテン 尻田 鳳至郡當目の内の小字。

シリメウチ 尻目打 ↓ツボモチ 坪持。

ジリンゲンシ 慈麟玄趾 石川郡曹洞宗大乘寺三十七代の住持。號は即一。越前の人、中村氏。密山道顯に受業嗣法した。嘗て若州神通寺に首衆となり、次いで永平寺に出世し、林泉寺に視察し、寛保元年八月一日大乘寺に入り開堂、一住十年、寛延三年二月本山を退き、河内摩尼山に隱居した。明和元年十月九日七十五歳にて歿。

シリندانソウ 士林談叢 ↓ブンケンザ

ツロク 聞見雜錄。

ジリンメイシヨウ 事林明證 三卷。室町時代より以前の古文書を前田綱紀の蒐集したものである。

シルシノサヲ しろしの芋 一冊。小松の俳人漱暄編。序は寶永二年仲夏下浣青雲齋漱暄。京井簡屋庄兵衛板。四季の發句を載せ、最後に漱暄の慰池魚災書、宇中の回祿記等がある。宇中は去年師走十六日小松の火災に類焼したのである。

シルタニ 汁谷 鳳至郡南北郷に屬する部落。

シロ 司鹽 ↓イハキシロ 岩城司鹽。

シロウマ 白馬 鹿島郡矢田郷に屬する部落。

シロウマヤキ 白馬燒 珠洲郡粟津で燒成せられた陶器で、三杯燒と同系統のものだらうが、委細は傳はらぬ。

シロカネシ 白銀師 ↓ゾウガンシ 象眼師。

シロカネチヨウ 白銀町 金澤の町名。升形橋から専光寺の辻までを呼ぶ。この名は十二冊御定書に載せた地子町肝煎裁許附及び國事昌披問答に載せた金澤町名付にも記載されてゐない。安江木町の内、白銀師が居たからの名と見える。

シロカネヤヨザエモン 白銀屋與左衛門 與左衛門はもと能登の産であつたが、金澤に出で、白銀屋に養はれ、技を桑原源左衛門に就いて學んだ。白銀屋は金銀細工を業とする者である。與左衛門元來怯懦にして、容貌婦人の如くであつたが、博奕に耽つてから女色に溺れ、遂に竊盜となるに至つた。與左衛門の爲す所殆ど倫を絶し、士庶の倉庫を破るこ

と十七回、時にその中に止ること二夜三夜に亘り、晝間の喧騒に乗じて物資を選択し、家人喫飯の室中を通行して遁れ去つたことすらある。寶曆十二年十一月晦日藩吏の爲に捕縛せられ、明和元年四月廿七日生胴に處せられた。與左衛門の男兒は十三歳で、前田孝昌の臣木村惣大夫に仕はれて居たが、亦連座して刎首に處せられた。初め與左衛門の捕はれた時、藩士の之と博奕を共にしたもの亦發覺し、明和元年二月その多數が處罰せられた。

シロキゴエ 白木越 能美郡白峰のうち赤谷から、新保のうち木地小屋へ越える峠。高さ一二五七米。

シロサカ 白坂 鳳至郡にある坂路。文化の書上に『澁田村より大野村へ行く峠を白坂と唱申候。』とある。

シロザカヤマ 白坂山 鳳至郡波並の部落から北方に在る山。高さ一六九米。地質第三紀層。

シロサキ 白崎 鳳至郡大川の西に當り、危岩海中に突出して、長さ三四百米の小岬をなすものをいふ。

ジロサクボリ 次郎作彫 ↓クニムラクニナガ 國村國永。

シロセ 白瀬 羽咋郡邑知院に屬する部落。元祿十四年の郷村名義抄に、『白瀬村御公領と入組。但御公領に而は白石村と書、シラシ村と唱申候。』とある。又明治五年四月、白瀬から上白瀬を分立せしめた。上白瀬はもと幕府領、その他は加賀藩領であつた地である。

シロセガバ 白瀬川 羽咋郡に在る。越中射水郡上余川村領かみだじよ及び羽咋郡神子原村領よしの谷内の二ヶ所より流出し、白瀬